

経営比較分析表（平成30年度決算）

愛媛県宇和島市 宇和島市立吉田病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	12	-	訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
75,827	8,866	第2種該当	13:1	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
96	48	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	144
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
52	48	100

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

宇和島市吉田地域における、入院機能を備える数少ない医療機関の一つであり、主に急性期を脱した後の回復期及び慢性期医療を中心として、地域医療の向上に努めている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

常勤医師が、平成15年度から平成28年度までに、11名から3名（うち1名は歯科医師）にまで減少し、それに伴い病床数も144床のうち44床休床し、100床で運営している。収支も相関して悪化したため、平成26年度以降は経常収支の黒字を維持している。平成31年1月より地域包括ケア病床を4床増床、また地域包括ケア入院医療管理料を2から1へ類上げを行い医療収益の増収を図ったが、人口減少と7月豪雨災害による影響により収益が大きく減少したため職員給与費対医療収益比率が上がった。医療収益悪化により累積欠損金は増加の一途を辿っており、会計制度改正による退職手当引当金分割計上によって、平成25年度以降累積欠損金比率は200%を超えた。平成30年度末を以て分割計上は終了したが、慢性的な赤字体質を改善しない限り欠損金の解消には至らない。医師の負担軽減と、累積欠損解消のためには、医師の確保が急務であり、同時に患者単価の増加等、経営の効率化に取り組まなければならない。

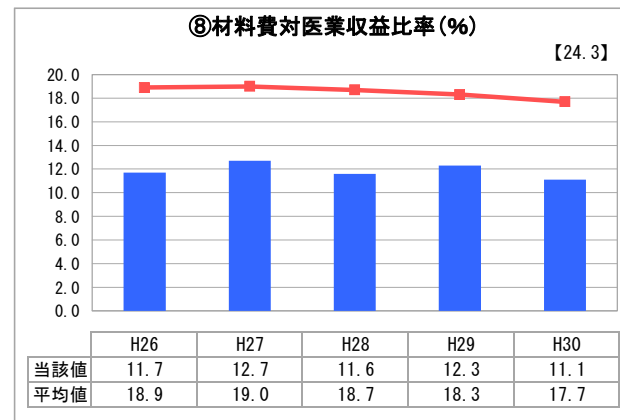
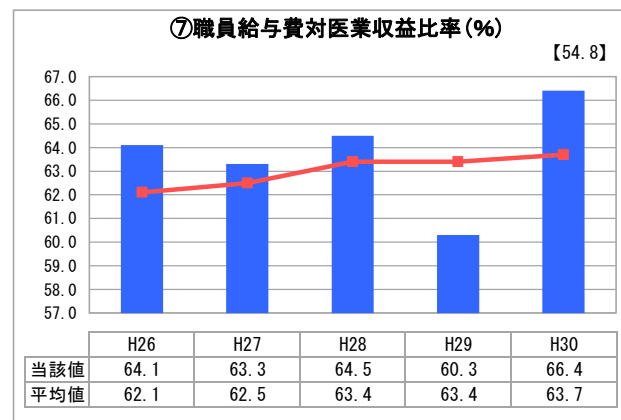
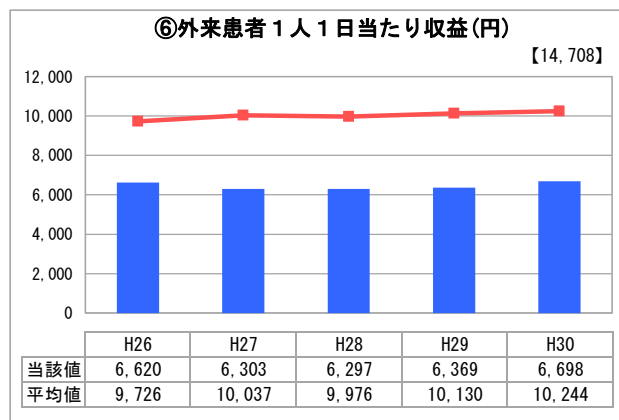
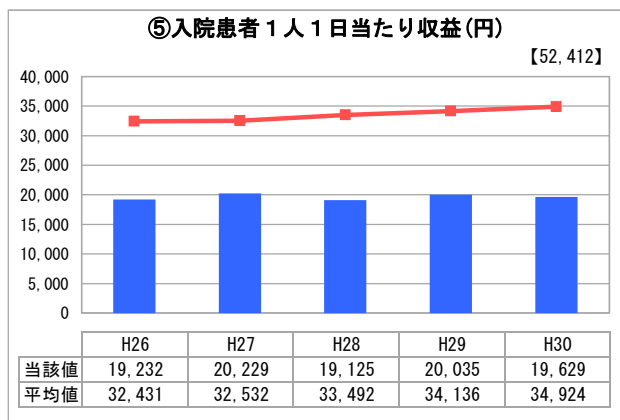
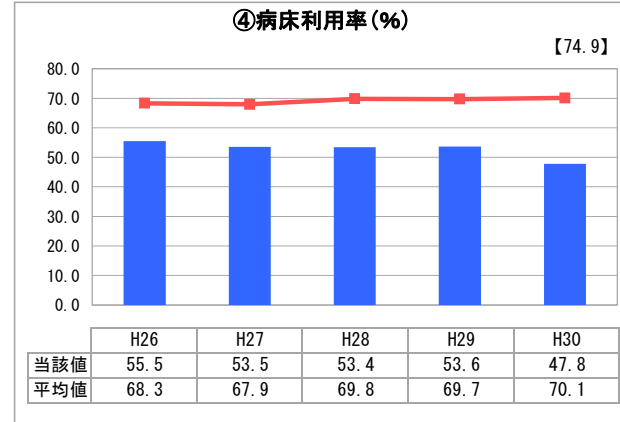
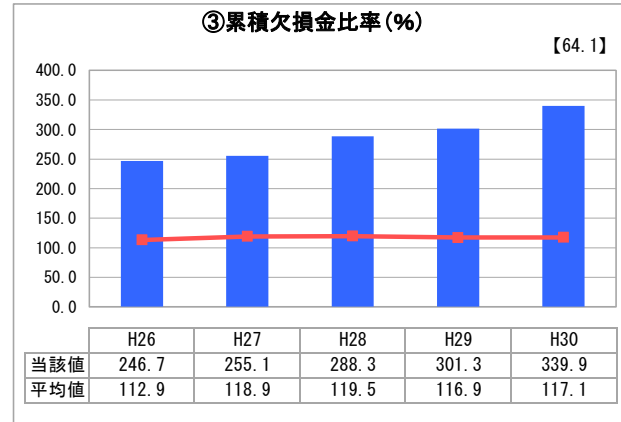
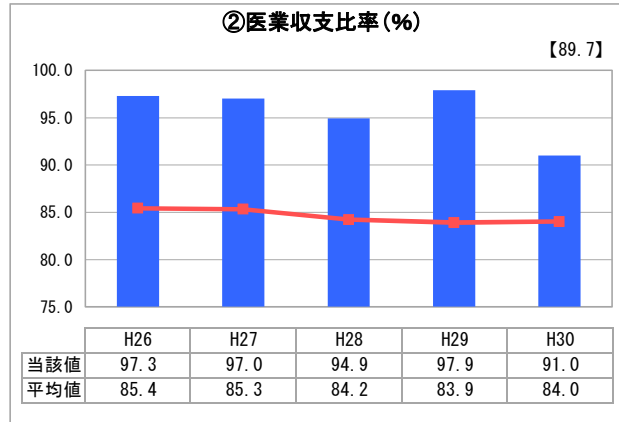
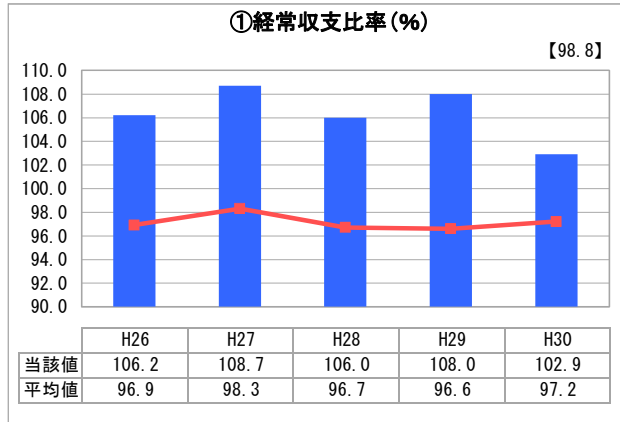
2. 老朽化の状況について

有形固定資産の減価償却率は類似団体平均値より高い。理由としては、施設の老朽化が顕著であること、医療機械の予防保全等きめ細やかなケアによる長寿命化などが挙げられる。また、昭和40年建築の病棟及び昭和56年建築の病棟については、耐震診断の結果、耐震強度不足が報告されており、今後の人口減少や医師不足を踏まえ、吉田病院病院機能等改編計画を策定し、同改編計画が決定した。

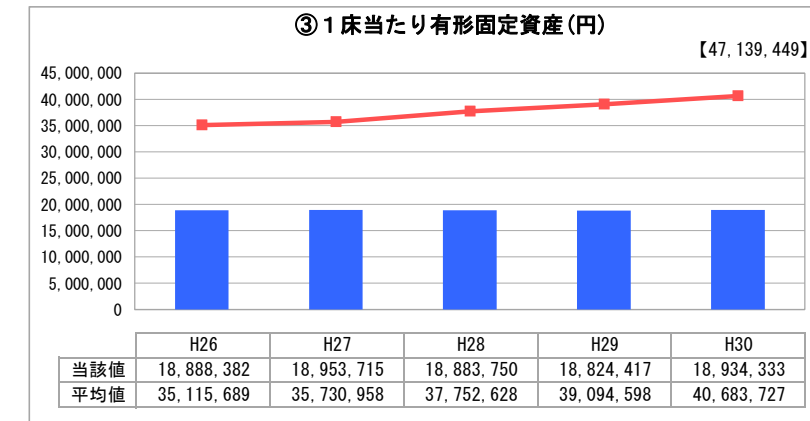
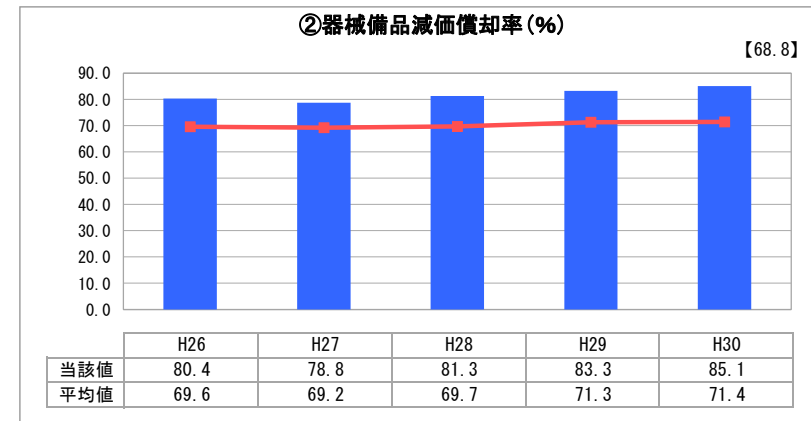
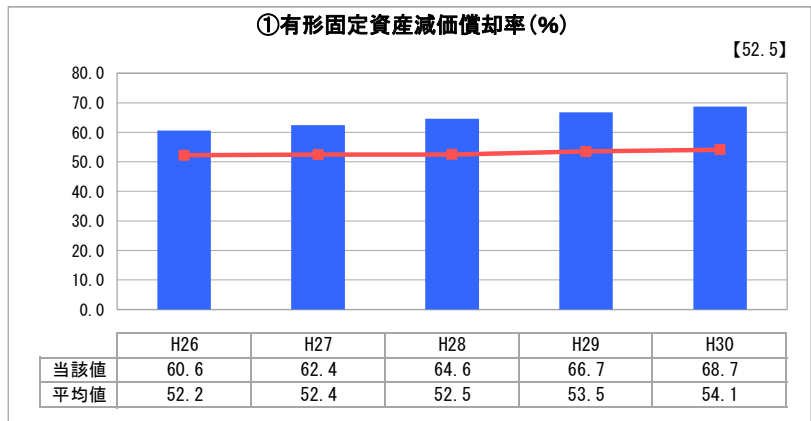
全体総括

地域包括ケア病床の導入・増床・類上げ等上位の施設基準を取得し増収対策を行っているものの、深刻な医師不足・看護師不足、人口減少による外来患者数及び入院患者数の減少スパイラルに陥っている。収益の改善は非常に困難な状況であるが、吉田地域におけるセーフティネットとしての役割を果たすため、引き続き経営の健全化に努めていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。